

自衛隊が去る日。

戦後、自衛隊とともに発展を続けてきた私たちのまち千歳。その自衛隊は今、国の防衛政策の変革や防衛力整備の見直しにより、組織の縮小や自衛官数の削減が進んでいます。これは私たちのまちにも大きな影響があります。今月は、自衛隊と私たちのまちとの関わりやこれまで果たしてきた役割、そしてこれからについて特集します。

■千歳と自衛隊

千歳は、陸上自衛隊第7師団の主力が所在する東千歳駐屯地、第1特科団の主力が所在する北千歳駐屯地、そして航空自衛隊第2航空団の主力が所在する千歳基地があり、「日本一の自衛隊のまち」と言われます。陸上自衛隊は、昭和27年にその前身となる保安隊が創設されました。千歳でも同じ年に現在



市民の平均年齢が39.4歳と、千歳は、若いまちです。いまは、若い社会を担う若者が多く暮らしています。全道から自衛官が多く暮らしています。

■自衛隊とまちづくり

自衛隊は、国の防衛のほか国際緊急援助活動など、国際社会

の北千歳駐屯地に「保安隊千歳駐屯地」、また、昭和29年には東千歳駐屯地が開庁。航空自衛隊は、昭和32年に千歳基地が開庁しました。千歳の自衛隊は、以来50年以上にわたり、陸と空の北の守りを担ってきました。

の平和と安定に向けた活動を行っています。

市内の自衛隊は、このほかに昨年開催されたジュニアエイトサミット2008千歳支笏湖などの各種行事の支援や災害出動、救難隊による人命救助など、市民の生命と財産を守るさまざまな活動を行っています。

市内には、現在約9千500人の自衛官が勤務しています。その家族を合わせると市の人口の約25%、約2万3千人が居住し、自衛官退職者なども含めると実に人口の約3割の方が自衛隊関係者になります。また、児童数でも自衛官の子どもの割合が全体の3割を超えるなど、自衛官の皆さんは千歳のまちづくりに大きく関わってきました。町内会活動、スポーツ行事、

■自衛隊の「今」

夏祭りなど、私たちが日ごろ参加している活動は、自衛官の方に関わり、自衛隊の支援と協力で行われているものが多くあります。千歳のまちづくりは、自衛隊と共存共栄を図りながら築かれ、まさに自衛隊とともに千歳は発展してきました。

平成16年に国は、自衛隊の体制や装備の整備水準など、今後の防衛力の基本的指針を示す「平成17年度以降に係る防衛計画の大綱^{たいよう}について」(現大綱)を策定しました。これによると、その完了時には陸上自衛隊の自衛官の定数は16万人から15万5千人に、主要装備の戦車や火砲は90両(門)から60両(門)にそれぞれ削減されます。

この結果、全国の自衛官の数は、平成19年度1年間で1万人以上減少しています。道内でも平成16年に帯広市の第5師団(隊員数約7千人)、平成20年に札幌市の第11師団(同約7千200人)がともに旅団化し、所属する自衛官の数はほぼ半減してしまいました。また、となりの恵庭市でも部隊の改編により自衛官数が減少するなど道内各地で自衛隊の体制見直しによる影響が出ています。

千歳とともに歩んできた自衛隊 その自衛隊は今…